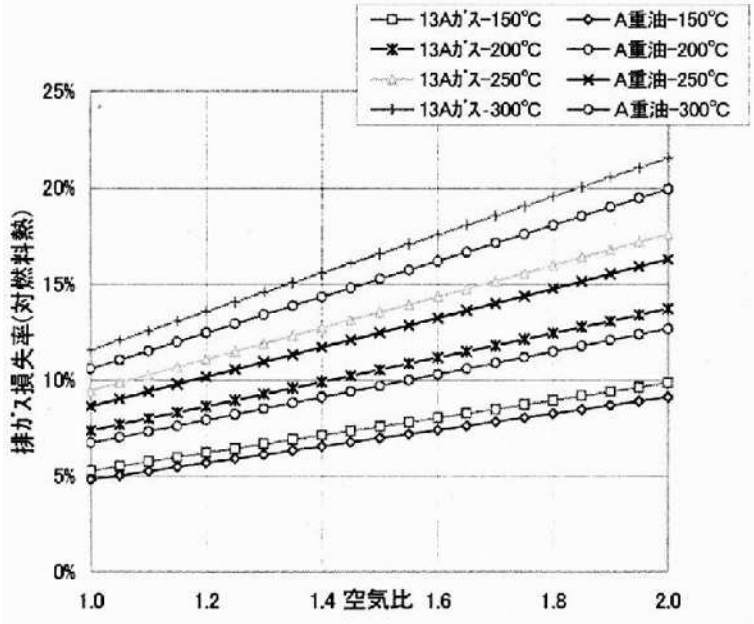


対 策 の 内 容		★燃焼設備の空気比管理	
A 運用対策 B 設備導入等対策		区分番号	1301、3201
		小 分 類	ボイラー、燃料の燃焼管理
現 状	ガスボイラーの空気比が高く、1.5 で運転している。		
対 策 内 容	● 空気比を省エネ法の判断基準に示されている基準空気比の値になるように調整する。このとき、低空気比による不完全燃焼によるすす等を発生させないように注意する。 ● 空気比を 1.5 から 1.25 に変更する。 ● 下図より、排ガス温度 200℃の場合、空気比 0.25 の改善により、排ガス損失率は 2%低減する。		
	 図 空気比と排ガス熱損失率の関係(13Aガス、A重油) (出典：省エネルギー診断技術ハンドブック(ビル編) (財)省エネルギーセンター発行)		
計 算 の 前 提 条 件	①排ガス温度：200℃ ②改善前のガス使用量：1,500 千 m ³ /年 ③排ガス損失率低減量：2% ④都市ガス単位発熱量：45.0 GJ/千 m ³ ⑤都市ガス料金：77.4 円/m ³ ⑥排出係数：0.0136 t-C/GJ		
地 球 温 暖 化 対 策 効 果	〔削減エネルギー量〕 $1,500 \text{ 千 m}^3/\text{年} \times 0.02 = \underline{30.0 \text{ 千 m}^3/\text{年}}$ 〔削減金額〕 $30.0 \text{ 千 m}^3/\text{年} \times 77.4 \text{ 円/m}^3 = \underline{2,322 \text{ 千円/年}}$ 〔削減CO ₂ 量〕 $30.0 \text{ 千 m}^3/\text{年} \times 45.0 \text{ GJ/千 m}^3 \times 0.0136 \text{ t-C/GJ} \times 44/12 = \underline{67.3 \text{ t-CO}_2/\text{年}}$		